



けや中だより

第11号

令和6年1月11日(木)

三田市立けやき台中学校

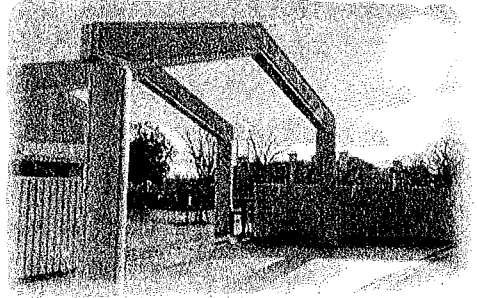
新しい年を迎えました。

謹んで新春の祝詞を申し上げます。

昨年はいくさんのお支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

みなさまのご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。

本年もどうぞよろしく申し上げます。



今年はい「辰年」です。龍のごとく、高くしなやかに上昇したいものです。目標を高く持ち、「なりたい自分」をイメージして、それに向かって一心不乱に努力する、そんな自分に出会いたいものです。

さて、年末のテレビ番組を視ていると、「干支の中で、なぜ辰・龍だけ実在しない動物なのか？」など、干支にまつわる話があちこちで語られていました。

「干支」とは「十干十二支」を略した言葉で、「十干」と「十二支」の2つのことから成り立っています。

「十干」：甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸 からなる10種類の要素のこと。「甲類・乙類」などモノの階級・等級や種類を示すために使われることもあります。

「十二支」：子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥 からなる12種類の動物のこと

「十干」と「十二支」をそれぞれ組み合わせると、「甲子」「乙丑」「丙寅」…「癸亥」と全部で60通りあり、六十干支と呼びます。これが一巡すると還暦となります。

例えば、それぞれ最初の「甲」と「子」を組み合わせると「甲子」は「こうし」となります。阪神甲子園球場が完成した1924年は、「十干」と「十二支」のそれぞれの最初である「甲」と「子」が合わさる縁起の良い年だったので、この野球場を「甲子園大運動場」と名付けたそうです。社会の歴史で習った「壬申の乱」や「戊辰戦争」などもこの干支で表した言い方です。

2024年は、「辰年」の中でも、六十干支で言うと「甲辰(きのえ・たつ)」です。

「甲」は十干の始まりにあたり、生命や物事の始まりを意味します。

「辰」は草木が伸長し、形が整い、勢いと活気にあふれている様子を表します。

「甲」と「辰」の合わさる「甲辰」である2024年は、新しいことを始めて成功する、今まで準備してきたことが形になるという年だといえるでしょう。誰にとっても、これからの成長をさらに形作っていく年になるのだと思います。

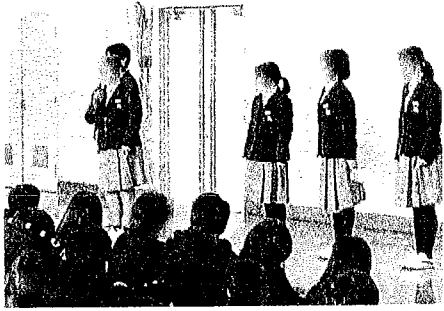
折しも今年はいオリンピックイヤー。フランス・パリで、オリンピック・パラリンピックが開催されます。新しい競技・ブレイクダンスも注目、今から楽しみです。オリンピック・パラリンピックで躍動する選手の力と技や気力、応援する人たちの声援に感動をもらい、自分を奮い立たせる年になるでしょう。

生徒会へ～生徒会役員引継ぎ式～

1月9日の始業式の後、2024年度の生徒会役員への生徒会役員引継ぎ式を行いました。

まずは、2023年度の役員より全校生徒へあいさつ。2023年度の役員は、1年間リーダーとしてけや中を引っ張ってきたことを振り返り、それぞれが思いを語りました。





「全校生徒の先頭に立つのは大変だったが、楽しさを感じることもできた」
「行事を企画し、みんなが楽しむ姿を見て、『やって良かった』と思えた」
「生徒会役員をやることで成長できた。支えてくれたみなさんに感謝です」

など達成感や成長、全校生徒への感謝の言葉があふれていました。

新生徒会からは、生徒会長が「全校生が心に残る活動をしたい。全校生みんなで作るけや中をめざす」と決意を語りました。

新生徒会が全校生徒の前に立つのは今日が初めて。少し緊張気味でしたが、新しい年の初めと同時に、けや中の新しいリーダーが動き始めました。これからの活躍に、乞う！ご期待！！

はっけよーい、のこった。のこった、のこった。

3学期は、今の学年のまとめの学期であり、次のステージへ進むための準備をする期間でもあります。しかし、学校へ来る日数はとても少なく、1、2年生は52日、3年生はわずか46日です。今のクラスで過ごす一日一日を、大切に過ごしてほしいと願います。

3年生は、進路の決定へ向けて全力で挑戦をしてほしい。2年生は、けや中の伝統を受け継ぎリーダーとなる学年として、責任を果たし団結すること。1年生は、4月に新入生を迎えますから、先輩と呼ばれるにふさわしい中学生としての力と風格を身に着けてほしいと願います。

新年・新学期を迎え、新たな気持ちで「今年は〇〇をやるぞ」「今学期は△△をがんばるぞ」と目標を立てたいと思います。その実現のために「大相撲」からのお話です。

「大相撲」の立ち合いの時に、行司さんは何と言うでしょう？

「はっけよーい、のこった」。これって、どういう意味でしょうか。実は、「はっけよーい、のこった」は、試合開始（立ち合い）の合図・かけ声ではありません。格闘技の多くは、レフリーによる「ファイト！」というかけ声を試合開始の合図とします。でも「大相撲」では、向かい合っている力士同士が呼吸を合わせて土俵に両手をついた時点で立合いが成立します。行司さんは力士の集中力を高めるために「待ったなし」「見合うて」などとかけ声をするのはあっても、試合開始の合図・かけ声として「はっけよーい」と言っているわけではありません。

諸説あるのですが、みなさんにぴったりのものをご紹介します。

◇「はっけよーい」

漢字で書くと「発気揚揚（はっきようよう）」という言葉が変化したもの。「気を盛んに出す」という意味で、「気分を高めて全力で勝負しよう」と勝負を促している。

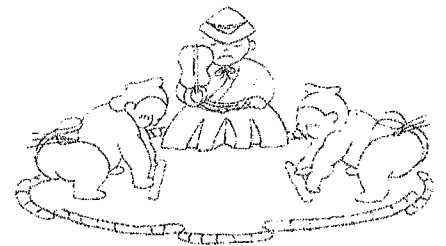
◇「のこった」

「両力士とも土俵にまだ『残って』いる」、「まだ勝負はついていないぞ!」という意味。

つまり行司さんは、「体中の気力を出して、勝負をあきらめず、考え工夫して勝負しなさい」と力士を鼓舞しているという説です。

この行司さんのかけ声は、お相撲さんだけに限った言葉ではなく、いろいろなことにあてはまるのではないのでしょうか。スポーツはもちろん、勉強や仕事をする時でも、「全力で」「集中して」「粘り強く」「よく考えて」と、私たちへの励ましの言葉でもあるように感じます。

みなさんの3学期の目標への道のりは今日始まったばかり。日々の地道な積み重ねによって、目標が達成できると思います。苦しいとき、前に進まないときには、自分に、友だちに「はっけよーい、のこった」「のこった、のこった」と励まし、応援する年にしたいものです。



(3学期始業式式辞より)